

令和6年度 愛知教育大学附属高等学校

第42回 高校教育シンポジウム

研究主題

これからの時代を生きるための資質・能力の育成 ―探究力とICT―
(3年次)

【期 日】 令和6年11月20日(水) 【会 場】 愛知教育大学附属高等学校
【主 催】 愛知教育大学附属高等学校 【後 援】 愛知県教育委員会

【日 程】

12:30	13:00	13:20	13:30	14:20	14:30	15:20	15:30	16:30
シンポジウム 受付	開会行事	移動	5限 公開授業	移動	6限 公開授業	移動	分科会	アンケート 回収

【シンポジウム対象授業】

第5限 13:30～14:20

第6限 14:30～15:20

分科会	科目名	実施学年	授業者
第1分科会 理科	科学と人間生活	1年	小嶋 功 林田香織
第2分科会 保健体育科	体育 (球技 バasketボール)	2年	長谷修司郎

分科会	科目名	実施学年	授業者
第1分科会 理科	科学と人間生活	1年	小嶋 功 林田香織

分科会 15:30～16:30

【分科会共同研究者・問題提起者】

分科会	共同研究者	問題提起者	テーマ
第1分科会 理科	愛知教育大学理科教育講座 教授 宮川 貴彦	足立達彦 小澤美沙 小嶋 功 林田香織	探究活動を推進するための 基礎探究力の育成について ―科学と人間生活 の授業を通じて―
第2分科会 保健体育科	愛知教育大学保健体育講座 教授 森 勇示	長谷修司郎 堀田景子 三井陽介	豊かなスポーツライフを継続する態度 を形成する体育の在り方とは？ ―自己最適化を学んだ 生徒の態度変容―
第3分科会		黒岡孝信 小田原健一	探究力の育成をめざした 組織体制の構築

【公開授業一覧】

	学年	組	実施教室	教科	科目	備考欄
5 限	1年	1	化学教室	理 科	科学と人間生活	シンポジウム対象授業
		2	CS 教室	情 報	情報Ⅰ	
		3	1-3 教室	国 語	言語文化	
		4	1-4 教室	地理歴史	歴史総合	
	2年	1	2-1 教室	英 語	英語コミュニケーションⅡ	
		2	体育館	保健体育	体 育	シンポジウム対象授業
		3	2-3 教室	英 語	英語コミュニケーションⅡ	
		4	2-4 教室	地理歴史	地理総合	
6 限	1年	1	化学教室	理 科	科学と人間生活	シンポジウム対象授業
		2	1-2 教室	公 民	公 共	
		3	1-3 教室	数 学	数学Ⅰ	
		4	1-4 教室 ゼミ A 教室	英 語	論理表現Ⅰ	
	2年	1	2-1 教室	国 語	論理国語	
		2	2-2 教室	地理歴史	日本史探究	
			ゼミB教室	数 学	数学B	
		3	2-3 教室	数 学	数学Ⅱ	
		4	2-4 教室	国 語	古典探究	

【シンポジウム分科会会場】

分 科 会	科 目 名	授 業 者	司会者	分科会会場
第1分科会 理 科	科学と人間生活	小嶋 功 林田香織	愛知教育大学附属高等学校 足立 達彦	地学教室
第2分科会 保健体育科	体 育	長谷修司郎	愛知教育大学附属高等学校 三井 陽介	スタジオ
第3分科会			愛知教育大学附属高等学校 宮本 真衣	合併教室

第1分科会 理科

探究活動を推進するための基礎探究力の育成について

—科学と人間生活の授業を通じて—

2022 年度より新たな高等学校指導要領に基づいた新教育課程が実施されている。新指導要領では自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を目指すとして、今後複雑化する社会の中で生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析することで、周囲の人と意見交換・協働しながら進めていく探究力の育成が重要である。しかし、高等学校現場で生徒の探究心を刺激するような授業を行うためには授業体制の改革が必要になる。また、探究力の育成が教員にとって大きな負担になっては積極的な取り組みが望めない。そのため、より簡便な方法の確立がのぞまれる。

そこで本研究では「他者と協働し試行錯誤を重ねることで、学習内容を総合的に扱い、探究力を育成する」ことと、探究活動においては実施準備から評価まで教員負担が大きいことから、「科目横断的共通フォーマットを作成することで探究活動をより簡便に行い、評価する方法を創出する」ことで教員の負担を軽減することを目的とする。今後、複雑化する社会の中でより多角的に物事をとらえ、他者と協働し新たな創出を行う人材の育成のために、多くの教員が負担感なく探究活動を取り入れることで、より多くの生徒が探究力を身に付けるための一助となる研究である。

第2分科会 保健体育科

豊かなスポーツライフを継続する態度を形成する体育の在り方とは？

—自己最適化を学んだ生徒の態度変容—

平成 30 年度告示新学習指導要領の改訂のポイントとして「習得した知識や技能を活用して問題解決することや、学習したことを相手にわかりやすく伝えること」、「運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること」などが挙げられた。そのため、高等学校の体育では生涯にわたって豊かなスポーツライフの継続する資質や能力の育成をより一層重視し、運動やスポーツの習慣化につなげることが求められている。今回、球技バスケットボールにおいて、豊かなスポーツライフを継続する態度を形成する体育の在り方についての授業研究を行った。その中で、生徒から集約したコメントを分析し、自己最適化を目指す生徒の態度の変容をまとめた。本研究では、自己最適化が研究の軸となっており、これを「異なる価値観を持つ者が集まってできた集団において、話し合ったり、寄り添いあったりすることで、その集団の全員が満足できるような最適解に近づけようとする」と本校の体育科で定めた。そして、下記表1「私たち（生徒）のゲーム」を方針として授業を行い、自己最適化を目指すスポーツ実践のための力がより一層高まるような授業展開にした。

表1

・私たち（生徒）のゲーム	・一般的なゲーム
生徒主体 ゲーム中心 課題解決学習 最適化したゲームルール・マナー 生徒同士で解決	教員主体 技能練習中心（技術アプローチ） 系統学習 教員が決めたゲームルール・マナー 教員が解決

第3分科会 探究力の育成をめざした組織体制の構築

令和3年度から取り組んでいる「探究力の育成」は、本校の学びの中心として全教員の一定の理解を得ることは出来た。しかし、実際の取り組みでは、他分掌や教科との連携が不十分であった。そのため、令和5年度後期より特別探究委員会を立ち上げた。全教員が主体的に効率的に取り組むことができる学校ビジョンの再構築や、カリキュラム・マネジメントを検討し、探究力と進路指導を関連させた学校経営目標や、3年間の学校教育活動の方向性を表した学びのロードマップ等を作成した。これによって、全教員の理解を深めることができた。当日の第3分科会では、進路指導との連携を深めた探究指導を展開している第2学年の実践を中心に、分掌・教科を巻き込み、学校全体で探究力の育成を図ろうとしている本校の実践事例を報告する。質疑応答を通して各学校の探究指導の現状と課題について情報交換をし、探究力の育成に繋がるように議論を進めていきたい。

【本校へのアクセス】

- (1) 名鉄名古屋本線知立駅から名鉄バス(①番のりば)
愛知教育大前行き, 日進駅行き, 又はイオン三好店アイモール前行きにて 20 分
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分
- (2) 名鉄豊田線日進駅から名鉄バス知立行きにて 25 分
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分
- (3) JR東海道本線刈谷駅から名鉄バス愛知教育大前行きにて 35 分
(本数が少ないので, 時刻表でご確認願います。)
「愛知教育大前」下車徒歩 10 分



【その他】

- (1) 申し込み後, 変更が生じた場合には, メールで担当へお知らせください。
- (2) お車で越しの際は, 大学南門横の大学構内駐車場(P11)をご利用ください。駐車時には駐車許可証をダッシュボードの外から見えやすいところに掲示してください。複数枚必要な場合はお手数ですがコピーをお願いします。また, 駐車許可証がない場合は受付にてお申し出ください。
- (3) 緊急の連絡等がある場合につきましては, 速やかに申し込いただきました連絡先にメールさせていただくと共に, 本校ホームページでもお知らせいたします。ご容赦ください。

お申し込みはこちらのQRコードから



<https://forms.gle/5QFpJURQdxvJUFzw6>

申込締め切り
11月6日(水)

担 当 研究主任 (小嶋)

Tel (0566) 36 - 1881 / FAX (0566) 36 - 1883

メール admin-hs@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

本校 HP <http://www.auehs.aichi-edu.ac.jp>